

「詩 と 共 に」

1 枚目／池田 先生 の 詩

（5 枚目の絵の裏に貼る）

1971 年、池田 先生 は 世界中 のすべてのお 母 さんへの 感謝 を 込 めて 長編 詩 「母」を 詠 みました。

「母 よ！／おお母よ／あなたは／あなたは なんと 不思議 な 力 を／なんと 豊富 な 力 を もっているの
か／母よ！／おお母よ／あなたは／あなたは なんと 強 き 調和 の 存在 か／なんと いいようのない 会話
の 名人 か」（長編詩「母」）

池田先生の「母」の詩は 世界 詩歌 協会 の 月刊 誌 『ポエツ』の 表紙 を 飾 り、人々に 大きな 感動
を 与 えました。インドの 教育 者 セトゥ・クマナン 博士 も 先生 の「母」の詩を 読み 感銘 を 受 けた 一人
です。博士は、詩をきっかけに池田先生の 生 き 方、教育 に 対 する 取 り 組 め を 学 び、池田先生こそ「わ
が 師匠」と 決 めたのです。博士は 自 らインドで「創価 池田 女子 大学」を 創 立。先生の詩は多くの人に
感動 を 与 え、生 きる 指 針 になっているのです。

2 枚目／「励 まし」から 生 まれる 詩

（1 枚目の絵の裏に貼る）

池田 先生 は、語 らいを 交 わしたその 席 で、便 りを 目 にしたその 場 所 で、報 告 を 聞 いたその 車 中
で、わずかな 合 間 を 縫 っては 同 志 のことを 思 い 詩歌 を 詠 んでしました。その 詩 作 は 6 0 0 編、1 4 万 行
を 超 えています。

ある 時 「なぜ、これほど 多 くの 詩 を 詠 むことができるのですか？」と 尋 ねられ、先生は「特別 なこと
は 何 もありません。その 人 を 何 とか 励 ましてあげたい。前向 きに 力 強 く 生 きてほしい、という 思 い
です。その 思 いで 贈 り 続 けてきた 結 果 です」と 答 えられました。

池田先生は、広 布 の 最 前 線 で 戦 う 同 志 の 方 々 を 讃 えて、次 のように 語 られています。「この方々を
讃 えずして、誰 を 讃 えるのか？ この方々の 人 生 を 歌 わずして、何を歌うのか」と。

池田先生の詩は、人々を励まさずにはおかないとの 溢 れる 思 いから生まれているのです。

3枚目／「詩」のもつ力（2枚目の絵の裏に貼る）

池田先生 の 詩 に対 し、世 界 中 か ら 多 く の 称 賛 が お く ら れ て い ま す。

ア ジ ア の 高 名 な 詩 人 の パ ッ リ ヤ グ ル 博 士 は、70代 を 超 え て 詩 を 書 き 続 け る 人 は 稀 だ る と 語 ら れ、「現 代 の 詩 人 は、読 者 に 悲 観 を 与 え る よ う な こ と ば か り を 書 い て い ま す。そ の な か で 池 田 博 士 は、勇 気 と 希 望 を 与 え る 詩 を 書 き 続 け て お ら れ ま す」と 讃 え て い ま す。

池 田 先 生 は「詩」の も つ 力 に つ い て 次 の よ う に 語 っ て い ま す。「詩 は、人 間 の 精 神 を 限 り な く 広 げ る。豊 か に す る。音 楽 の よ う に、国 境 を 超 え、距 離 を 超 え て、人 間 の 心 を 結 ぶ。……だ か ら こ そ 私 は、詩 を 大 事 に し ま す」と。

4枚目／「桂冠詩人・世界桂冠詩人・世界民衆詩人」（3枚目の絵の裏に貼る）

池 田 先 生 は「桂 冠 詩 人」「世 界 桂 冠 詩 人」「世 界 民 衆 詩 人」の 3 つ の 称 号 を 授 与 さ れ た、世 界 で た だ 一 人 の 詩 人 で す。世 界 の 文 学 史 上、ア メ リ カ の ホ イ ッ ト マ ン、ロ シ ア の プ ー シ キ ン、ド イ ツ の ハ イ ネ な ど、「民 衆 詩 人」と 呼 ば れ、民 衆 に 愛 さ れ た 詩 人 が い ま す。「世 界 民 衆 詩 人」の 称 号 は、そ の「民 衆 詩 人」の 名 に「世 界」を 冠 し た も の で す。

こ の 称 号 を 2007 年 に 池 田 先 生 に 対 し て 授 与 し た 折、世 界 詩 歌 協 会 の ス リ ニ バ ス 会 長 は「今 日 の 世 界 は 破 滅 へ と 直 進 し て い ま す。池 田 会 長 の よ う な 偉 大 な 詩 人 だ け が そ れ を 救 う こ と が で き る の で す」と 語 り ま し た。

5枚目／“正義の言葉”、“励ましの声”を（4枚目の絵の裏に貼る）

池田先生は、次のように語っています。「現実の社会には、人を陥れ、命を傷つける邪悪の言葉が渦巻いている。言葉が乱れるとき、人間が乱れ、時代が乱れる。だからこそ私たちは、何ものにも屈せぬ、正義の言葉を、真実の言葉を、21世紀の文化の世界に一段と力強く響かせてまいりたい」と述べられました。また、「皆を励まし、鼓舞しようとするとき、無限の言葉が溢れ出てくる。目に見えるもの、命にふれるものが、みな、そのまま詩となっていく」とも語られています。

池田先生の詩は、ほとぼしる正義の心、励ましの心から生まれているのです。私たちもなにもものにも屈せぬ“正義の言葉”を、友への“励ましの声”を力強く響かせていきましょう。

決意 など